

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「人物の気持ちと行動を表す言葉」 教材名「人物の気持ちと行動を表す言葉」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、様子や行動、気持ちを表す語の意味を比べ、表したい内容に合う語を使う。思考・判断・表現では、人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直す。交流や試行の前後を比べ、表現を直した人物の短文を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちを表す語の意味を比べ、表したい内容に合う語を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直している。（B(1)エ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、気持ちと行動を表す語の使い分けを中心に学ぶ。人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)オとB(1)エに関係する学習である。成果は、表現を直した人物の短文に示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、気持ちを表す語を重ねるだけにあることである。行動の具体と読み手が受ける印象を比べる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直す。 ○この行動の言葉でどんな気持ちが伝わるかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、表現を直した人物の短文を見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



6 本時の指導 (1/2)

(1) 本時の目標

人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「この行動の言葉でどんな気持ちが伝わるか」 【めあて】気持ちと行動を表す語の使い分けについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・動きの言葉を変えると気持ちも違って見える。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。気持ちを表す語を重ねるだけにする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直す。 3 書いたものを読み返し、「この行動の言葉でどんな気持ちが伝わるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認める。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 〈予想される児童の反応〉 ・動きの言葉を変えると気持ちも違って見える。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	行動の具体と読み手が受ける印象を比べる。知識・技能では、様子や行動、気持ちを表す語の意味を比べ、表したい内容に合う語を使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直している。(B(1)工) (初稿・見直した稿・修正理由)
まとめ (分)	5 表現を直した人物の短文を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】書いたものを読み手の立場で確かめ、目的に合う言葉や構成へ直すと、伝えたい内容が明確になる。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この行動の言葉でどんな気持ちが伝わるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(表現を直した人物の短文と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、人物の様子を書く短文を読み比べ、表したい気持ちに合う語へ書き直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。気持ちを表す語を重ねるだけにする場合は、行動の具体と読み手が受ける印象を比べる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に

関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には気持ちと行動を表す語の使い分けを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に表現を直した人物の短文で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

